

令和4年度 釜石高等学校教職員 働き方改革アクションプラン

～いいあんべにけえぺしっ～

釜石高等学校では、「岩手県教職員働き方改革プラン(2021～2023)」に基づき、以下の取組により、「学校における働き方改革」を推進します。

1 現 状

- 時間外在校等時間が、月100時間以上の教員は0%で推移しているが、月45時間超（週休日の部活動指導時間を除く）の職員が複数いる。
- 急速に変化する社会状況を背景に教職員の業務量が年々増加傾向にある。
- 勤務時間に対する意識は高まっているが、業務改善にまでは繋がっていない。
- 業務多忙で教材研究の時間や生徒と向き合う時間が十分確保できていない。

2 目指す姿

- 教職員が仕事にやりがいを感じ、健康でいきいきと業務にあたっている。
- 教職員が教材研究の時間や生徒と向き合う時間を確保できている。
- 職員一人一人が「働き方改革」を意識し、業務改善や労働時間の短縮に努めている。
- 管理職は日頃から教職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

3 取組内容

○ 教職員の健康管理

- タイムカード等の活用により、教職員自身が時間外在校等時間の状況を把握し、勤務時間を意識した働き方に取り組みます。
- 管理職は長時間労働教職員に対して積極的な声かけするとともに、保健指導対象者に産業医による保健指導を奨励します。
- 教職員が同僚に相談しやすい職場となるように環境整備を推進します。

○ 学校における業務改善の推進

- 考査期間や長期休業中に「定時にカエル日」を設け、教職員の休養を図ります。
- 週1日以上、部活動休養日を徹底しながら、年間平均で週2日以上、休養日の設定に努めます。
- 管理職は、教職員が教材研究の時間や生徒と向き合う時間が確保できるように業務の精選に取り組めます。

○ 学校及び教員が担う業務の明確化・適正化の推進

- ICTの積極的な活用を図り、業務の効率化を推進します。
- 業務負担の軽減に向け、学校内業務だけではなく、関係団体との協議も進めながら、業務全体のスクラップ・アンド・スリムに取り組めます。
- 地域の理解を基に、盆・年末年始の学校閉庁を継続します。

4 目 標

- 時間外在校等時間が100時間以上の職員を今年度もゼロとする。
- 時間外在校等時間（週休日の部活動指導時間を除く）が月45時間超、年360時間超の者を段階的に縮減し、令和5年度のゼロを目指す。
- 「定時にカエル日」に定時退勤した教職員の割合 → 90%以上(R3は89.6%)
- 学校評価アンケートで「多忙とされる公務が分担・削減等で改善されつつある」 → 回答の平均値5.5以上(R3は4.6)

令和4年6月1日 釜石高等学校長 青木裕信

（参考）「岩手県教職員働き方改革プラン(2021～2023)」(抜粋)

【策定趣旨】

- 働き方改革の実現により、岩手の未来を担う大切な子どもたちに、質の高い教育の持続的提供につなげる。

【プランの期間】 令和3年度～令和5年度までの3カ年度

【プランの目標】

目標1 県立学校の教員の時間外在校等時間の縮減

- (1) 時間外在校等時間が月100時間以上の者を令和3年度からゼロにする。

- (2) 時間外在校等時間（週休日の部活動指導従事時間を除く。）が月45時間超、年360時間超の者を下記のとおり段階的に縮減する。

時間外 在校等時間	取組期間		
	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
月45時間超	令和2年度実績の 5割減	令和2年度実績の 8割減	ゼロ
年360時間超			

目標2 業務への充実感や、健康面での安心感の向上

令和5年度において、アンケート調査に基づく肯定的実感が令和3年度の実施結果から向上することを目指す。